

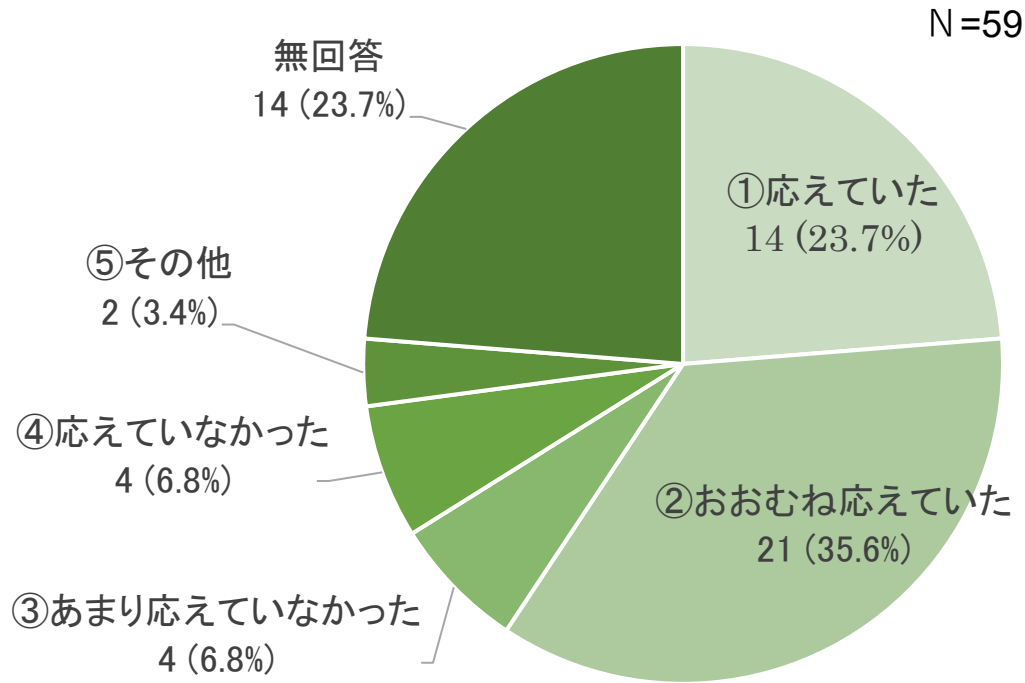
センター調査に関するアンケート結果

< 医療機関・遺族 >

1.センター調査報告書の内容について

1- (1) 期待や疑問に答えていたか

医療機関

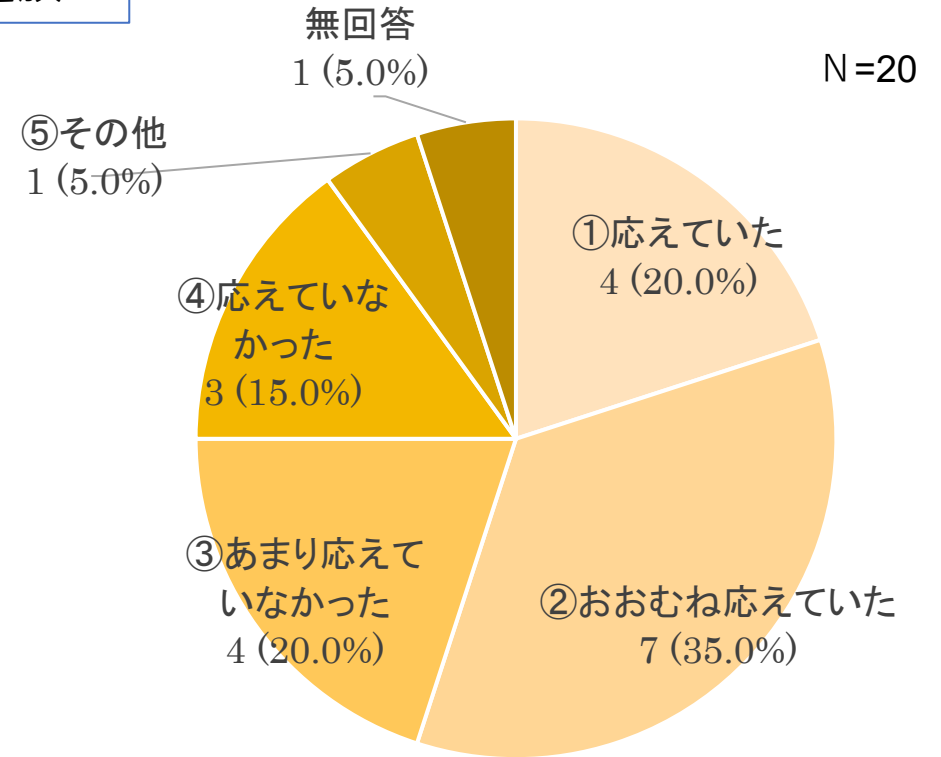


内容が期待や疑問に答えていたと回答した医療機関は約60%であった。一方、応えていないと回答したのは約13%であった。

【その他の意見】

・病院の報告書と相違がみられた。

遺族



内容が期待や疑問に答えていたと回答した遺族は55%であった。一方、応えていないと回答したのは35%であった。

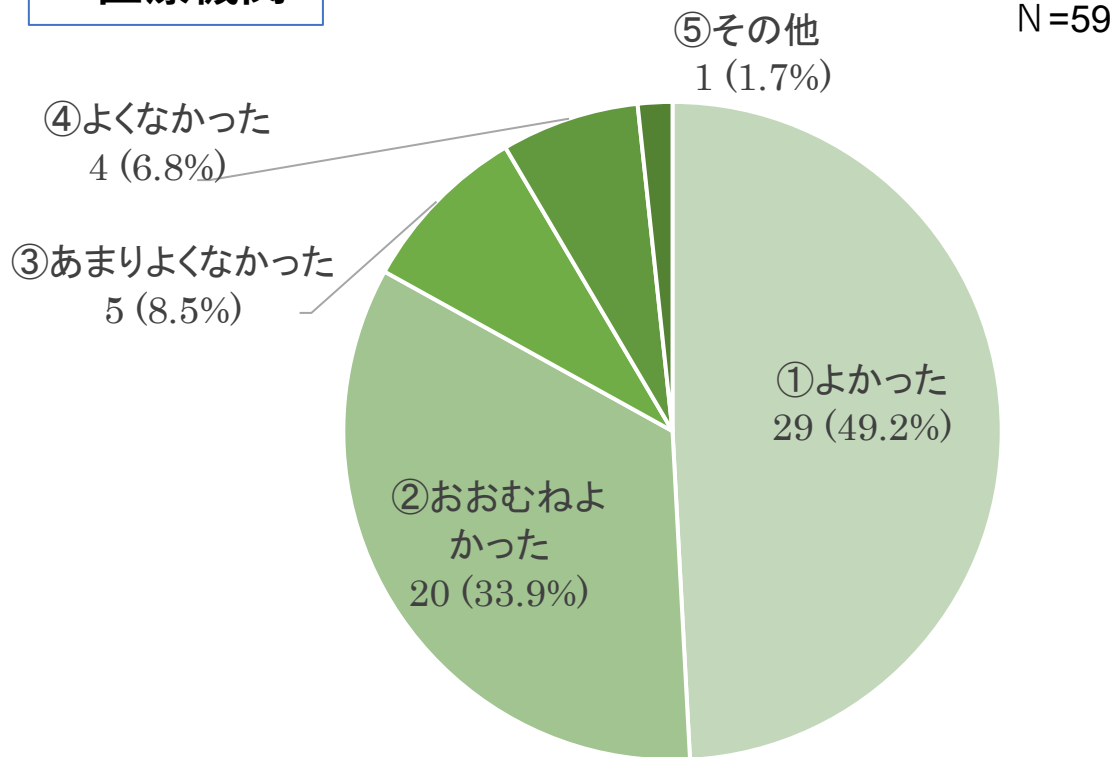
【その他の意見】

・病院からの報告書とほぼ同じだった。

1. センター調査報告書の内容について

1- (2) センター調査を行って

医療機関



センター調査を行って良かったと回答した医療機関は約80%以上であった。

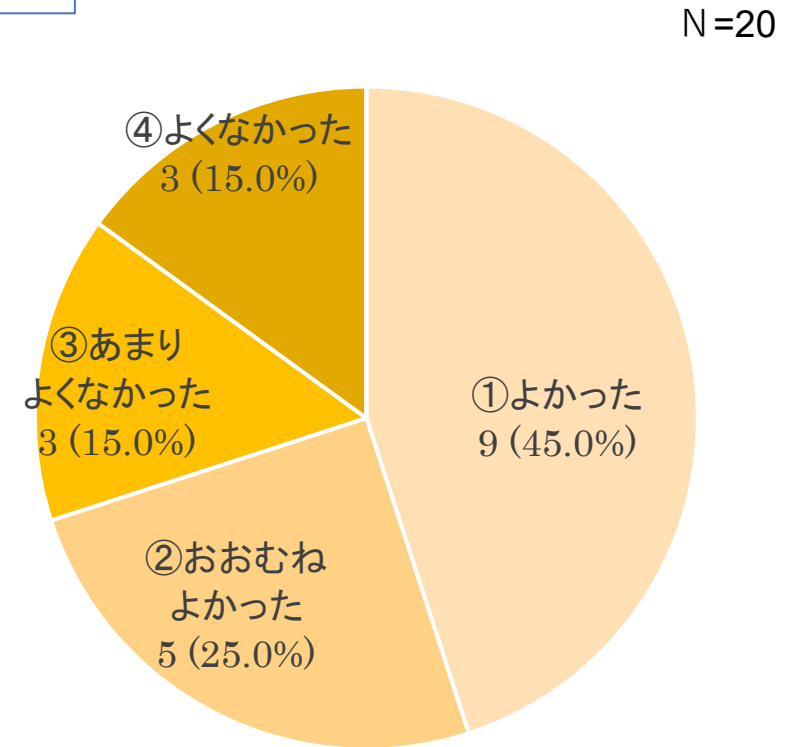
【よかった、概ねよかった】

- ・報告書の内容が、客観的だった。
- ・理論的に究明されていた。
- ・適切、妥当な結果、説明だった、感謝。

【あまりよくなかった・よくなかった】

- ・一方的な内容だった。
- ・調査に時間がかかりすぎた。
- ・文書でなので、病院が意図したことが十分に伝わっていなかったのではないかと。

遺族



センター調査を行って良かったと回答した遺族が70%であった。

【よかった、概ねよかった】

- ・専門的によく検討してもらえた。
- ・疑問点が明確になった。
- ・第三者の視点から医療行為に対し評価がなされたという意味では、概ねよかった。

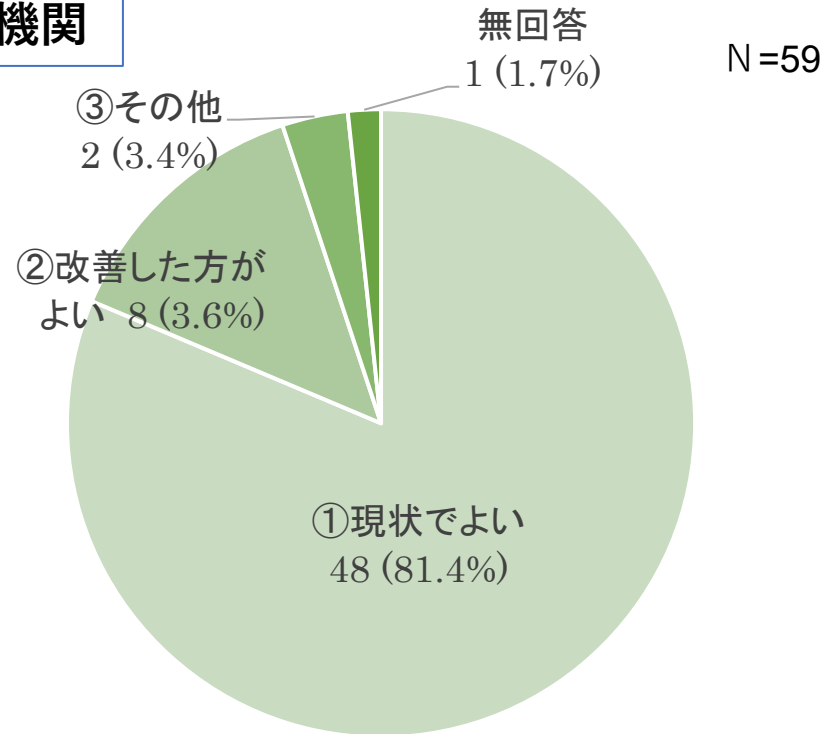
【あまりよくなかった・よくなかった】

- ・医療者寄りの内容だった。
- ・調査に時間がかかりすぎた。
- ・病院の言うことが全てになるような調査ではないかと思ってしまう。

1.センター調査報告書の内容について

1-(3) センター調査の部会員構成について

医療機関



部会員の構成について現状でよいと回答した医療機関は約80%であった。一方、改善した方がよいとの回答は約4%であった。

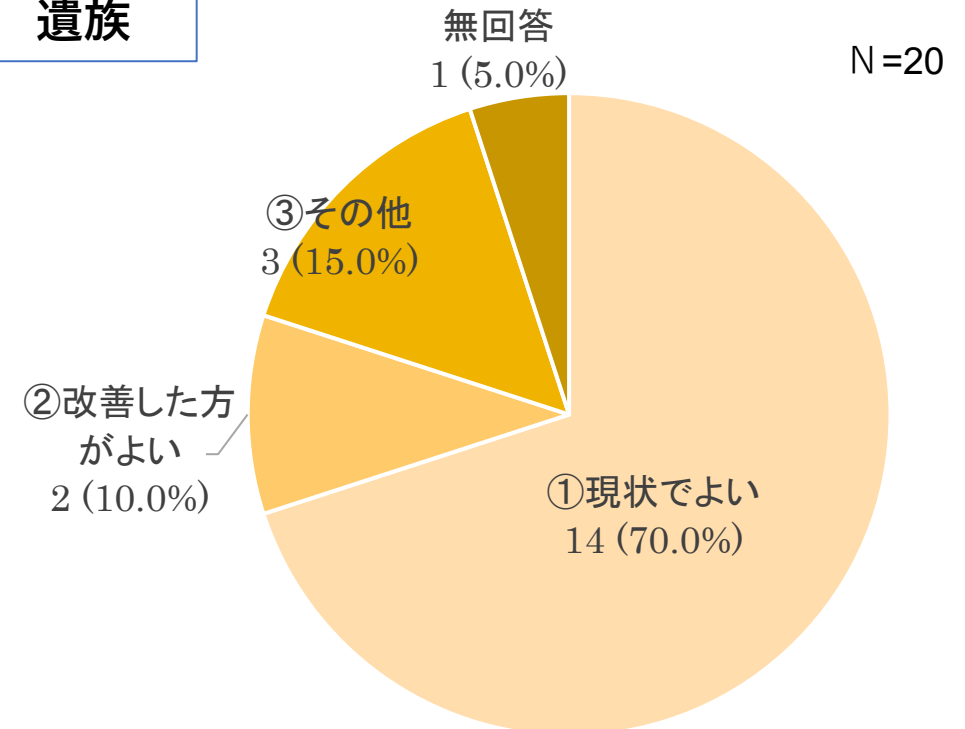
【現状でよい】

- ・ 中立的な部会員構成と思う。
- ・ 委員会には、弁護士や患者家族会からも委員が選ばれており、妥当だと考える。

【改善したほうがよい】

- ・ 事故調査の専門家ではないので、スペシャリストの育成が必要と思う。
- ・ ポイントを患者・家族に置かれているのではないかと感じた。
- ・ 実際の臨床と乖離があると感じた。

遺族



部会員の構成について現状のままでよいと回答した遺族は70%であった。

【現状でよい】

- ・ 公正、中立だと思う。
- ・ 専門の先生方であり現状でよい。

【改善したほうがよい】

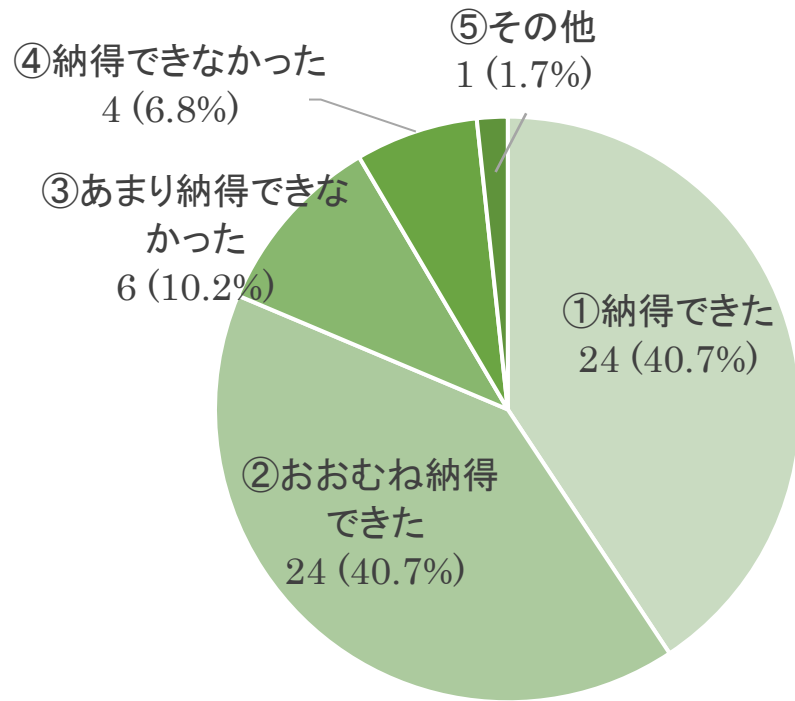
- ・ 医療界は封建的なので、公正中立か疑わしい。

1.センター調査報告書の内容について

1-(4) -1) センター調査報告書に納得できたか

医療機関

N=59



報告書の内容に納得できたと回答した医療機関は約80%であった。

【納得できた】

- ・院内調査報告書と同じ認識だった。
- ・中立公平で、再発防止策が適切だった。
- ・一部に現実的に難しい改善案の提案もあったが概ね妥当な内容でまとめられていた。

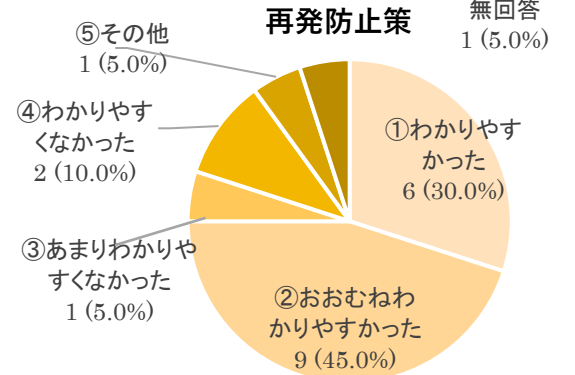
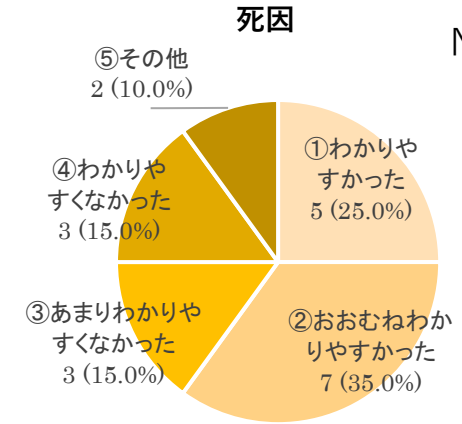
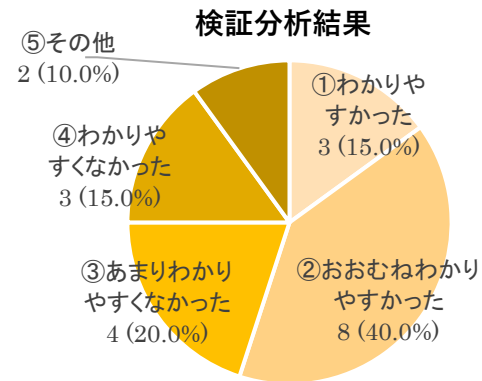
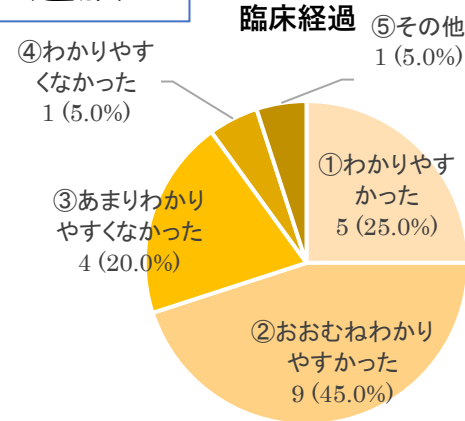
【納得できなかった】

- ・院内調査の内容が反映されなかった。
- ・センターが家族から面談、聞き取り、調査したことが事実として独り歩きしていた。

1-(4) -2) センター調査報告書の内容はわかりやすかったか

遺族

N=20



臨床経過と再発防止策についてはわかりやすかったと回答した遺族は約70%で、死因と検証分析については約60%であった。

【上記に対する主な意見】

- ・医療の知識がなくても理解できた。
- ・知識が追いつかず内容を読み解けなかった。
- ・十分な事実認定がなされなかった。

1.センター調査報告書の内容について

1-(5) センター調査報告書の用語注釈や説明図は内容を理解するために役に立ったか

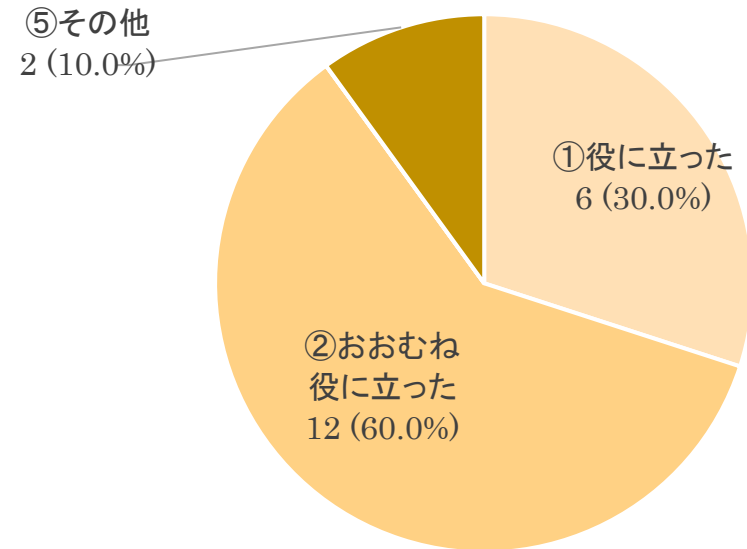
医療機関

遺族

N=20

設問なし

用語注釈や説明図



用語注釈や説明図が役に立ったと回答した遺族は約90%であった。

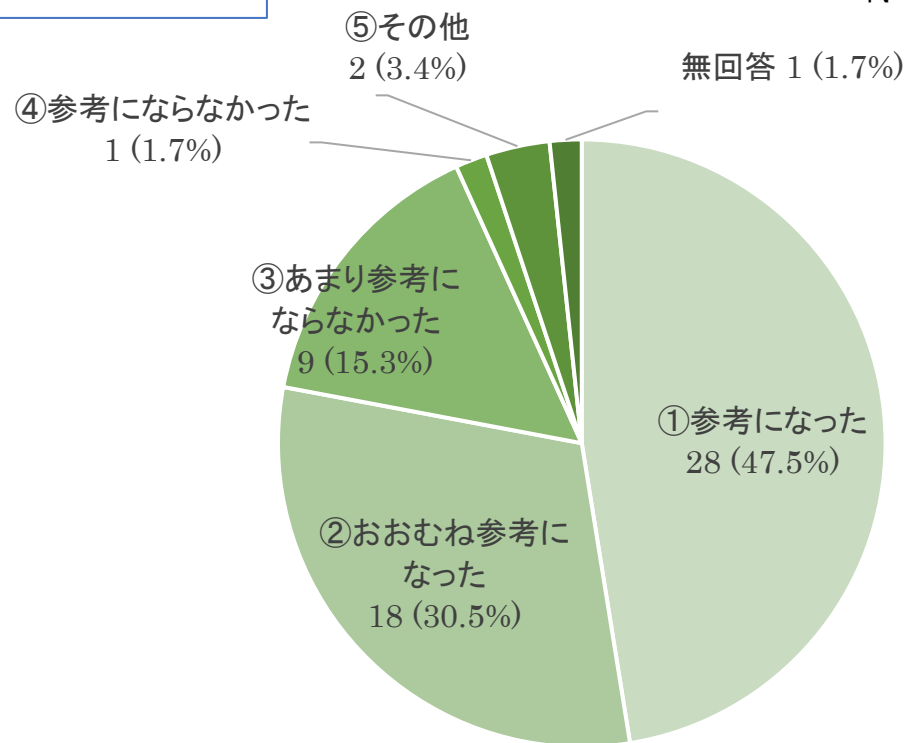
1.センター調査報告書の内容について

1-(6) 再発防止の提言は参考になったか

医療機関

遺族

N=59



設問なし

再発防止の提言が参考になったと回答した医療機関は約80%であった。半面、参考にならなかったとの意見には、事実や根拠に疑問があることが挙げられた。

【参考になった】

- ・改善に役立った。
- ・医療機関の再発防止策と同じだった。
- ・納得できる内容も含まれていた。

【参考にならなかった】

- ・報告書はどのような事実に基づいた論点なのか偏っているように思った。
- ・施設の規模、環境を考慮して提言してほしい。
- ・根拠、証拠が明確に示されず自分たちの考え方のみで結果を出しているように感じた。

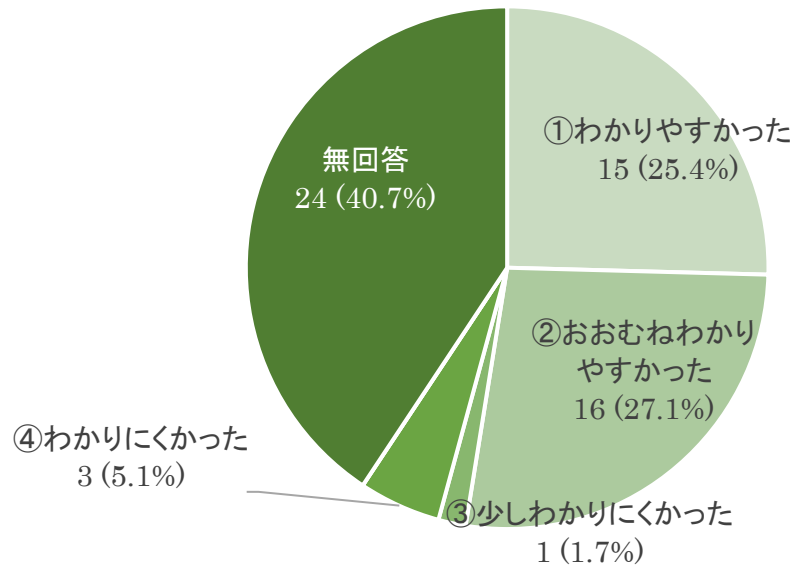
2.申請時にセンターが書面および口頭で行う「センター調査に関する説明」 ならびにセンター調査期間中のセンターからの進捗連絡について

2-(1) 説明はわかりやすかったか

医療機関

N=59

センター調査の説明

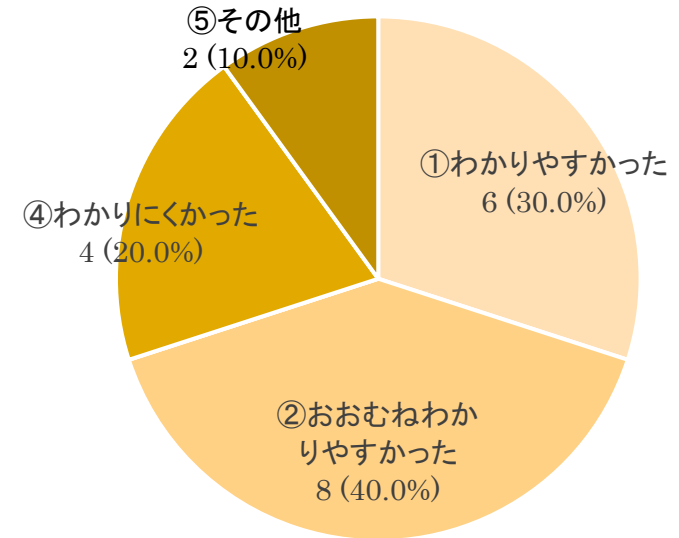


センターの説明についてわかりやすかったと回答した医療機関は約50%であった。

遺族

N=20

センター調査の説明



センターの説明についてわかりやすかったと回答した遺族は70%であった。

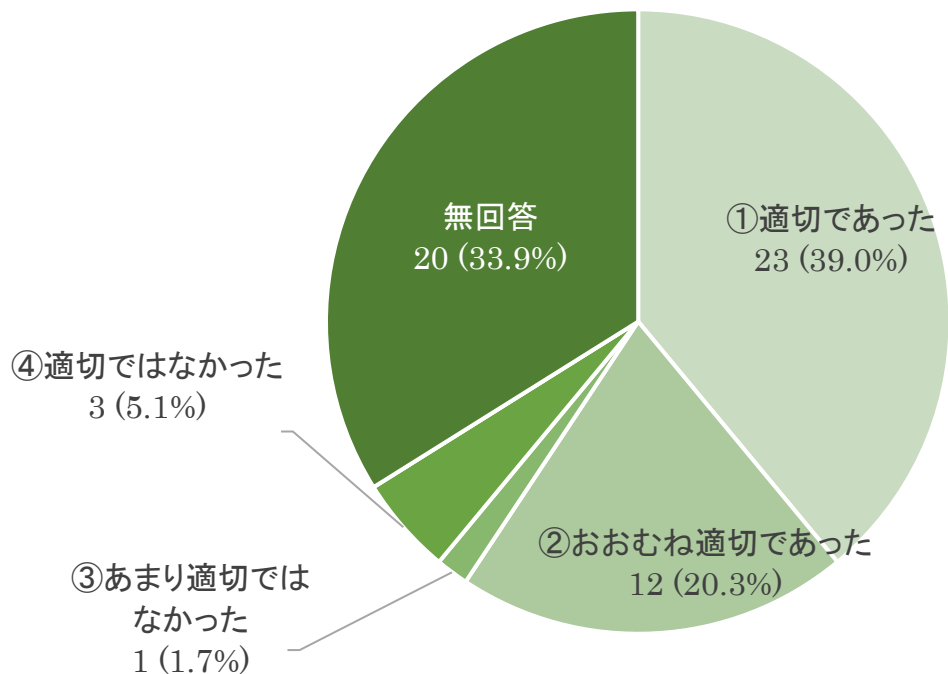
3.センター調査中の情報提供への協力について

3-(1) 診療記録の提出方法について

医療機関

N=59

遺族



設問なし

提出方法について適切と回答した医療機関は60%以上であった。

- 【あまり適切でなかった、適切でなかったと回答した方からの改善したほうが良い点】
- ・センター調査が開始になった際、関係者が交代、不在となり、記録を探すことに難渋する。
 - ・受け入れた医療機関（当院以外）にお願いした情報開示で手間で時間がかかった。
 - ・搬送先の情報について情報開示のお願いや費用まで全て当方の責任で実施するよう言われたので不親切さを感じた。
 - ・病理ブロックの提出を求められたが、貴センターの調査範囲を超えているのではないか。

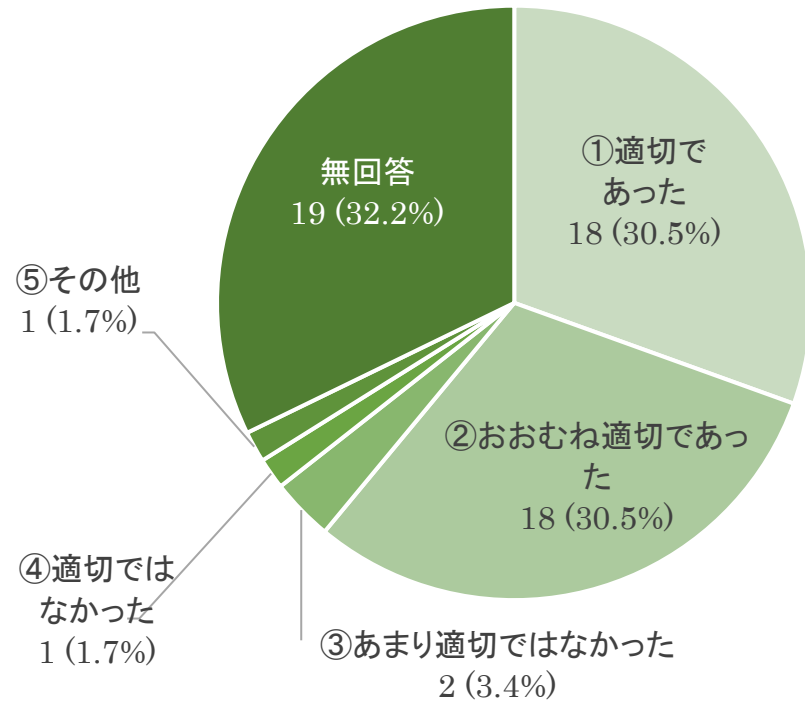
3.センター調査中の情報提供への協力について

3-(2) 聞き取りの内容や方法について

N=59

医療機関

聞き取り方法

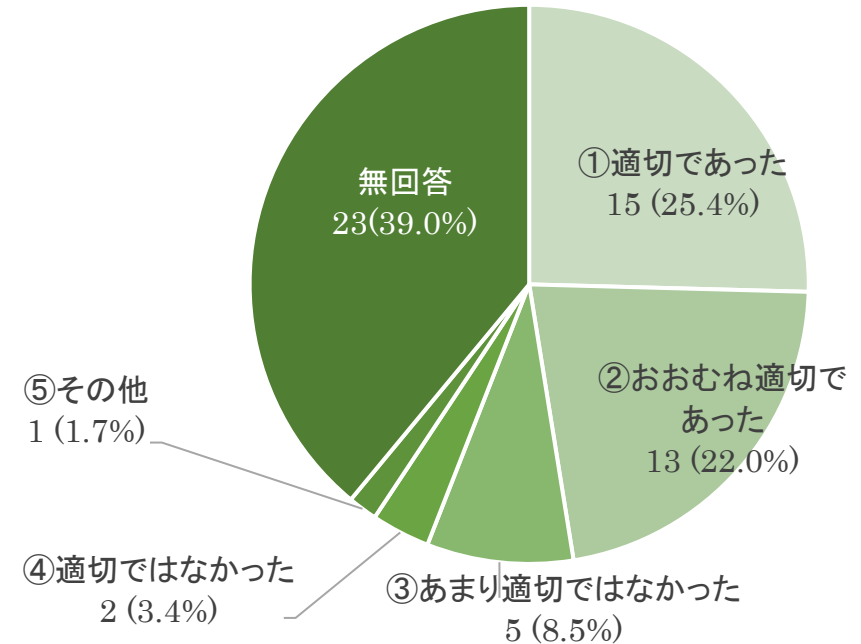


聞き取り方法について、適切であったと回答した医療機関は約60%であった。

【方法に関する意見】

- ・時間がたちすぎて当該者が辞職していたため、記憶があいまいなことがあった。

聞き取り内容



聞き取り内容について、適切であったと回答した医療機関は約47%であった。

【内容に関する意見】

- ・何度も同じ内容をくり返し回答求められた。
- ・回数が多く重複した内容もあった。
- ・時間が経過するにつれ、関係者の異動退職が増えたため質問の意図が伝わりにくかった。

3.センター調査中の情報提供への協力について

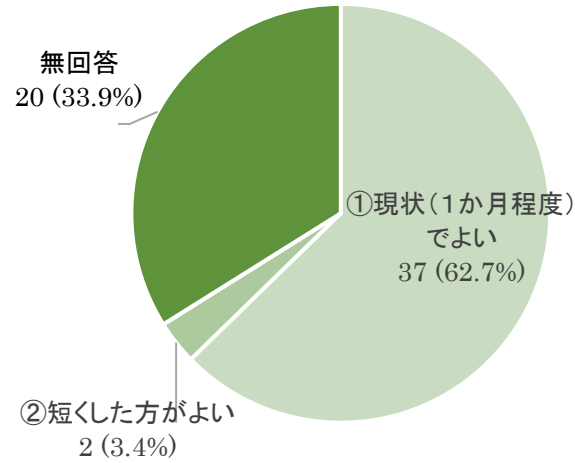
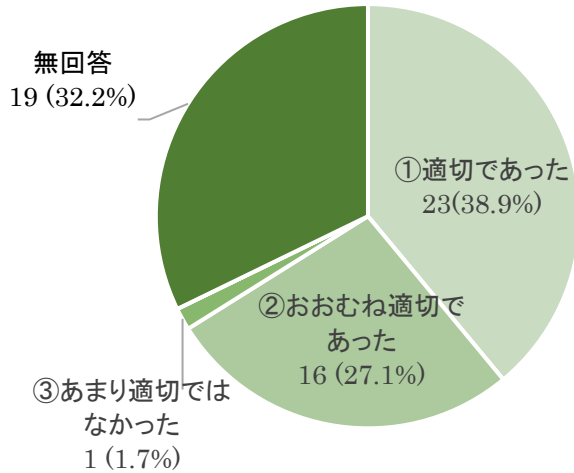
3-(3) 臨床経過の確認の方法や期間について

医療機関

N=59

臨床経過の確認方法

臨床経過の確認期間



臨床経過の確認方法・期間について、現状でよいと回答した医療機関は約65%であった。

【臨床経過の確認に関する意見】

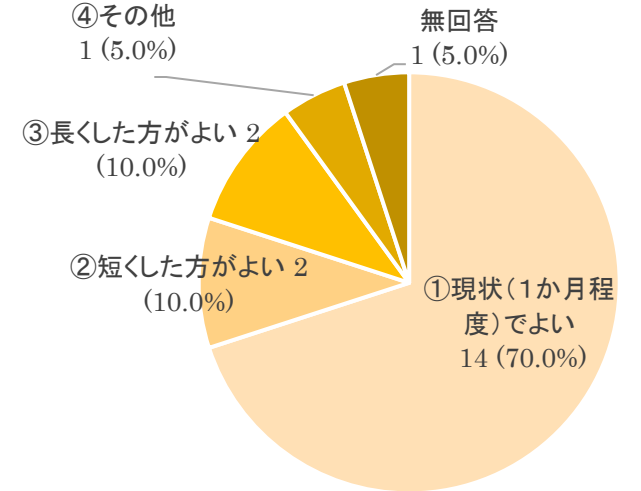
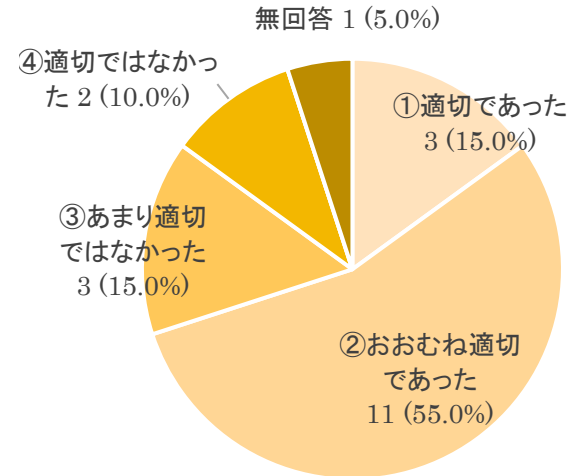
- ・ 適当な期間である
- ・ 通常業務があるため、1ヵ月対応できない時にどうするのか、個別相談をうけてくれるのか明記しておいてほしい。
- ・ 診療科とのやり取りを考えると、1か月半程度の余裕があるとよい。

遺族

N=20

臨床経過の確認方法

臨床経過の確認期間



臨床経過の確認方法について適切であったと回答した遺族は70%で、期間について現状でよいと回答した遺族も70%であった。

【臨床経過の確認に関する意見】

- ・ 1か月で適当と思う。
- ・ 仕事で忙しい場合はもっと時間が必要。
- ・ 方法としては適切。
- ・ 面と向かって話をした方がよい。
- ・ 漏れはなかった。

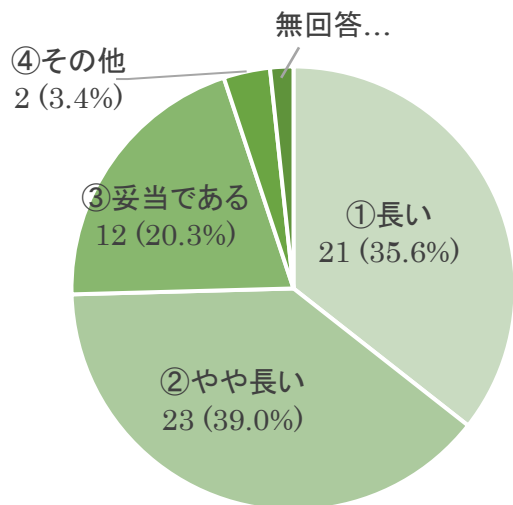
4.申請から交付までの調査に要した期間について

4-(1) 調査に要した期間について

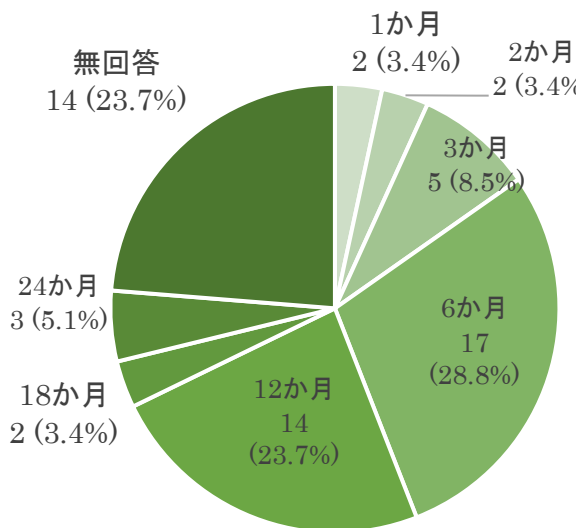
医療機関

N=59

調査期間



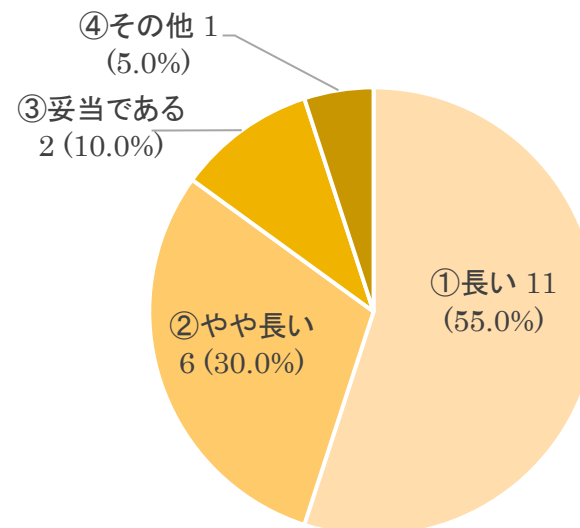
妥当と思う期間



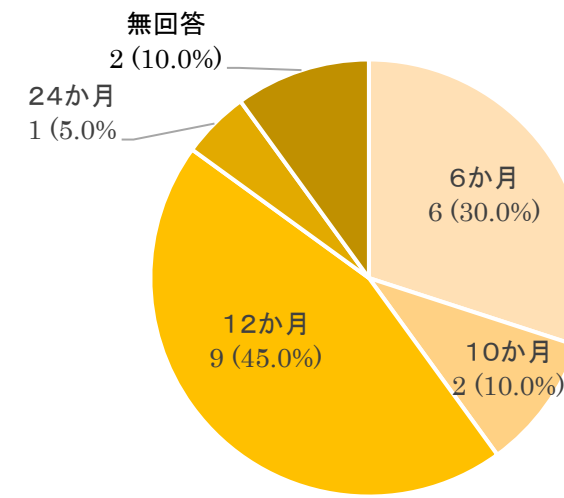
遺族

N=20

調査期間



妥当と思う期間



調査期間は長いと回答した医療機関は約80%あった。
妥当とする期間は6か月～1年が多い。

【調査期間に関する意見】

- ・長いと思ったが、基準がわからないので妥当性はわからない。
- ・仕方がないのは理解している。

調査期間が長いと回答した遺族は85%だった。
妥当とする期間は、1年と回答した遺族が最も多く45%、次に多かったのは6か月であり、1年以内の期間を妥当としている遺族が多い。

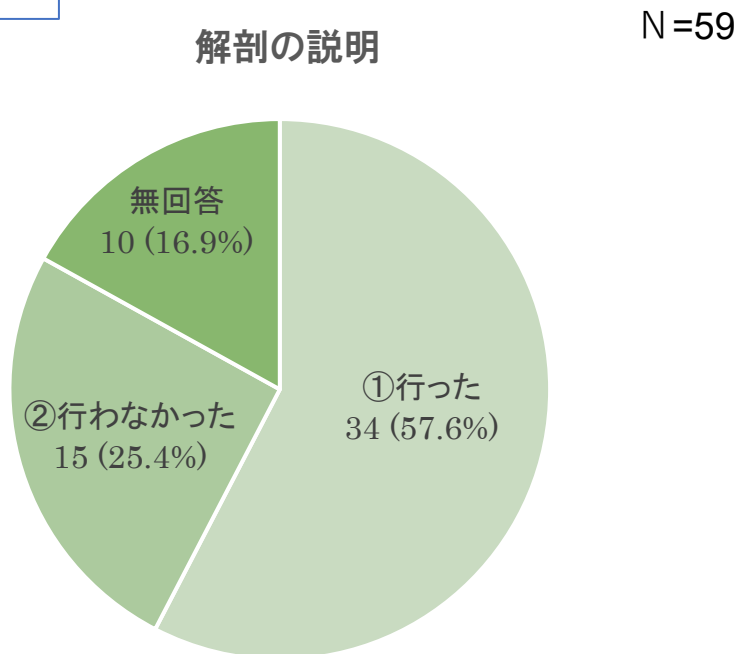
【調査期間に関する意見】

- ・2年もかかった。これは長過ぎかと思う。
- ・調査の内容にもよるので調査期間については何ともいえない。
- ・時間がかかってもきちんと調査していただける事を願う。

5.解剖について

5-(1) 解剖の説明を行ったかどうかについて

医療機関

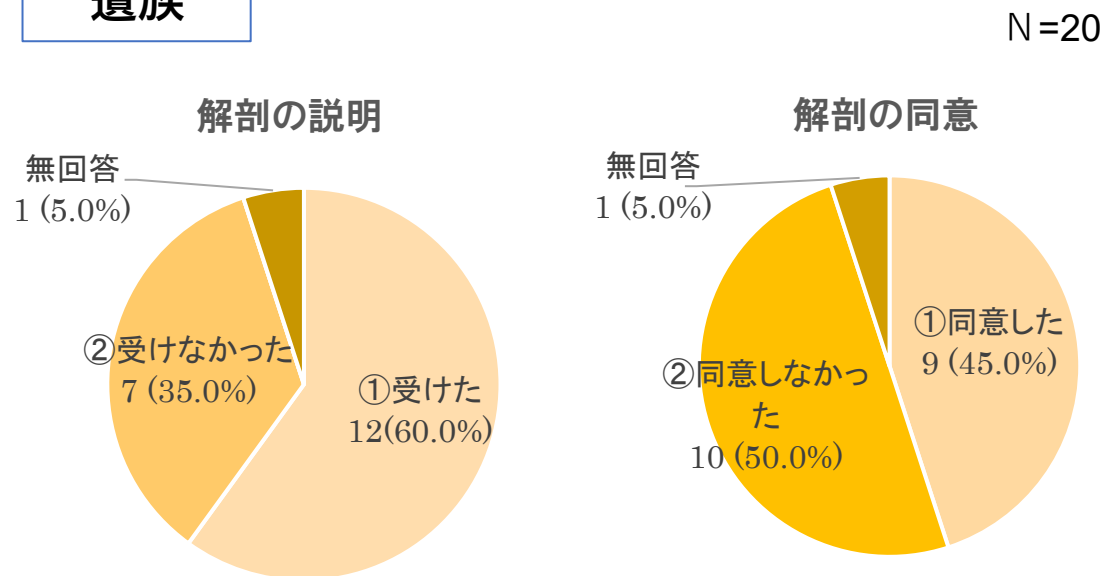


解剖の説明を行った医療機関は約60%だった。一方、行わなかったのは約25%で、理由は解剖の必要性を感じなかった、医療事故の認識が無かったなどであった。

【解剖について現在の考え】

- ・実施すべきと思う。
- ・ご遺族にとって解剖を行うことで救われることがあるとは限らない。
- ・恐ろしいと思うところがあるが、公平性を担歩する一歩である。
- ・客観的に判断するにはとても良い。但し、日本の文化的側面も含め、ハードルは高い。また、行政解剖になると、結果を提示頂くことが難しいことも大きな課題。

遺族



解剖について説明を受けた遺族は60%であった。また、解剖に同意した遺族は45%であった。

【解剖について現在の考え】

- ・もっと正確に死因がわかったと思う。
- ・必要である。病院からの説明をしっかりとしてほしい。
- ・脳死の状態が長かったので、解剖したが死因の状況を解明するには至らなかった。

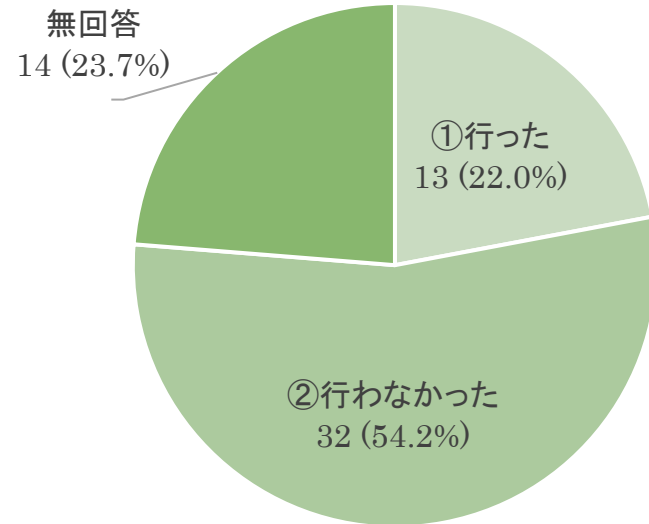
6.Aiについて

6-(1) Aiの説明を行ったかどうかについて

医療機関

N=59

Ai実施のご遺族への説明



Aiの説明を行ったのは22%であった、行わなかったのは約54%と半数以上であった。

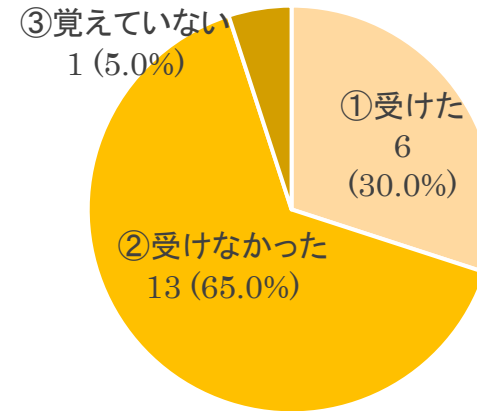
【説明を行わなかった理由】

- ・ Ai撮影の必要性を感じなかった。
- ・ 搬送先で死亡した。
- ・ 前日にCTを撮影していた。
- ・ 医療事故の認識がなかった。
- ・ 解剖を行ったから。

遺族

N=20

Ai 実施の説明

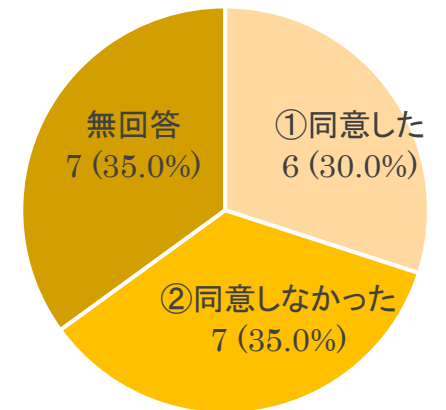


Aiについては、説明を受けたと回答した遺族は30%であり、同意した遺族も30%であった。

【同意しなかった理由】

- ・ 説明を受けていない。

Ai の同意



7.当該患者が受けた一連の診療に複数医療機関が関わっていた事例について

7-(1) 院内調査の際、当該患者の情報提供依頼を他の関連医療機関に行い、情報を得られたか

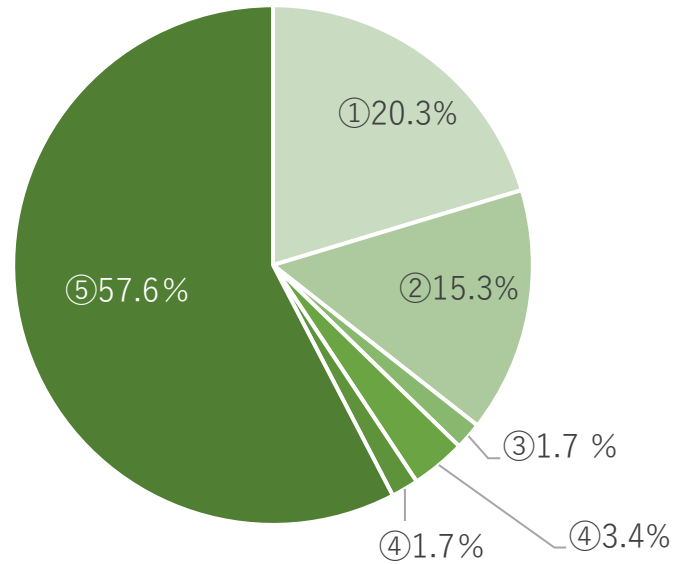
医療機関

N=59

遺族

情報を得られたか

設問なし



- ①情報提供を行い、依頼した情報はすべて得られた
- ②情報提供を行い、依頼した情報の一部を得られた
- ③情報提供を行ったが、情報は全く得られなかった
- ④情報提供依頼は行っていない
- ⑤その他
- 無回答

8. その他の意見

医療機関

- 中立的立場からの評価も加わった報告書が作成されることは有意義なことである。
- 良いフィードバックとなり、今後に活かせるものであった。
- 院内調査支援にあたって、外部委員選定に対する支援を強化してほしい。

遺族

- 出来る限り短く、でも調査はしっかりと行ってほしい。
- 遺族は医療機関とは医学的知識が全く違うので、調査を通じて理解できた。時間がかかるのはやむを得ないが更に工夫してほしい。